

御 挨拶

東京都立青峰学園のホームページをご覧ください、ありがとうございます。

本校は、平成21年4月に開校し令和6年度末で、開校16年が経過いたします。高等部就業技術科においては、1学年60名の募集定員が設けられ、生徒全員の企業就労を目標に、専門的な教育を行う新たなタイプの特別支援学校として、多くの企業関係者等と連携し、生徒の自立や豊かな社会参加に関して成果をあげてきました。

また、肢体不自由教育部門においては、新たな指導体制の整備として、平成21年度より外部専門家の導入や学校介護職員の導入をモデル事業として推進し、教員と共に看護師や介護の専門家等が連携してそれぞれの専門性を生かし、児童・生徒へきめ細かな指導・支援を行うなど、学校経営や指導においてこれまでに様々な新しい事業や、児童・生徒の喫緊の課題に応じた先進的な取組を推進してきました。

さて、令和三年答申（中央教育審議会）では、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に取り組むことや、Society5.0時代に向けた社会変化の加速度的な進展や予測困難な時代への対応に向けて、これからの学びの在り方について考え方を整理するとともに、多様で柔軟な学びの具体的な姿を明確化することが求められています。

本校では、全ての学部・学科、学年段階でその趣旨を踏まえた実践を進めるべく、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」、「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた授業等の改善と確実な実施に向けて、昨年度に引き続き研究と実践を推進し、令和の日本型教育における特別支援教育の進展に全力を尽くします。

さらに本校では、校訓である「切磋琢磨」を学校生活の指針とし、建学の精神と取組を重んじつつ、時代に合った知識・見解を導き実践することに努めて参りました。今年度も、児童・生徒の学力を育むのと同時に、学校生活全般において、他者と関わり合いながら共に学び、共に磨き合い、人間性を涵養していく、学校としての重要な役割を果たします

新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、昨年度にはこれまで実施できていなかった、外部参観者を招いた青峰フェスタの開催や、宿泊行事等を再開し、児童・生徒にも笑顔が増えてきました。引き続き感染症対策を徹底し、安心・安全な学校環境を整備して、両部門が一体化した取組を推進することで、障害種別等の垣根を越えた交流活動や地域への貢献活動を充実させ、「共生社会」の具現化に努めてまいります。

最後に、保護者の皆様、地域の皆様、企業・関係機関の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和六年四月一日

東京都立青峰学園

校長 吉池 久